

患者さんへ

「非閉塞性腸管虚血で外科手術をされた患者を対象とした

カテコラミン投与量と予後との関連」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2011 年 1 月より 2023 年 6 月までに当院で非閉塞性腸管虚血(non-occlusive mesenteric ischemia: NOMI) の疑いで外科手術を行った患者さんのうち、術後集中治療室(intensive care unit: ICU)に入室し NOMI と診断された方。
2 研究目的・方法	NOMI は、動脈硬化を背景として、腸間膜血管が血栓などによる器質的閉塞によらず、虚血になり壊死を起こす疾患です。急性の腸間膜血管閉塞の 5-16%が NOMI であり、死亡率は 31-90%とも報告されていますが、発生機序や診断基準は定まっておらず、予後因子は依然として明らかになっていません。予後因子の一つとして、高用量カテコラミンの投与が NOMI と関連するという報告がありますが、その閾値やその他のリスクとの関連は不明です。 本研究ではカテコラミンの投与量と NOMI の予後との関連について調査します。NOMI の予後に影響を与えるカテコラミンの投与量を検討することで、重症患者へのカテコラミン投与のリスクを明らかにし、予後の改善が期待できます。 研究の期間:施設院長許可(2023 年 8 月予定)後~2025 年 3 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	情報:年齢、性別、病歴、既往歴(心疾患、高血圧、高脂血症など)、血液検査結果、手術中の情報など
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 鎌口清満、湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科・集中診療科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717